



▲世間話をしながら楽しく縄をなう参加者

手作りのしめ縄で新年を

大山公民館大山分館で12月19日（金）、年末恒例のしめ縄作り講習会が行なわれました。当日は、地区住民17人が参加。原にお住まいのしめ縄作り名人、松井肇さんの指導で、玄関や神棚用のしめ縄を作りました。

参加者は、わらを打って軟らかくした後、松井さんの手を借りたり、互いに協力したりして仕上げました。

毎年参加する住民がほとんどで、参加者は「立派なしめ縄が出来、安心して新年を迎えられます」「皆で話しながら作るのが楽しい」と笑顔で話していました。



▲出来上がった臼を前に

手作り臼に挑戦

羽田井の松本健則さん（69）ら5人がケヤキの木を利用して臼を作りました。

12月24日に木を切り出し、翌日から作業開始。元大工の棟梁だった経験を活かし、松本さんが仲間へ技術指導して仕上げました。

松本さんらは農閑期を利用してそばづくりやホンモロコいの養殖、炭づくりなどをして活動しています。年末には、育てたそばを子どもからお年寄りまで寄り集まって食べるそうで、地域の顔としても知られています。

伝統行事を伝える

上前谷、下前谷部落のサイノカミさん



古くから村の入り口などに祭られ、村人や行人を災害から守るとともに、良縁を招くとされるサイノカミさん。

13日に上前谷と下前谷両部落合同で7人がしめ縄をないました。当日の12月15日は早く参るほど良いとされ、米の粉の団子を供えます。男の子が生まれた家からワラ馬が供えられていました。



▲立派な野菜に大満足！

中山中学校のボランティア委員会で、プルトップや割り箸集めを通して環境や国際貢献のことを考えたり、校地内の農園で野菜作り、地産地消を推進しています。

その農園で作ったかぶや大根が12月18、19日と1月14日、15日の石狩汁などの給食に入りました。

生徒が種まきから収穫まで野菜作りにかかわったので味もまた格別だったことでしょう。



生徒が育てた野菜が給食に！